

第 71 号

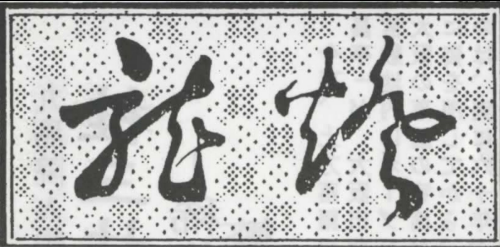
大阪市史跡 龍溪禪師墓所 靈龜山 九島院

〒550-0022 大阪市西区本田3丁目4番18号
TEL 06 (6583) 2725 FAX 06 (6583) 0908

発行所

発行者

第廿五代住職 奥田 啓知 (智證)



当院は、阪神なんば線で、なんばから7分です。

教育現場に体罰厳禁

教育のプロなら人格を磨け

大阪市立桜宮高校のバスケット部で主将を務める2年の男子生徒が、顧問の男性教諭から体罰を受け続け自殺した問題は、連日新聞紙面を賑わせています。

元巨人軍の桑田真澄さんは、自分の体験から、「体罰をする指導者はスポーツをする資格はない、必要なのは体力と技術力と精神力で、根性では勝てない。大事なのは選手自身。人から何かをされて強くなるものではない」と語っています。

曹洞宗の中興の祖、瑩山禪師(一二六八生)は、つねづね母親から「そなたは観音さまの申し子です。だから、観音さまのように、慈悲深い人になってほしい」と聞かされていました。

母は子宝に恵まれず、観音さまに願をかけ、ようやく彼女が三十七歳のときに生まれたのが瑩山禪師だったのです。

ある日、坐禅を怠けて別室で昼寝していた雲水を見つけました。かっとなった禪師は、警策を振り上げました。その時、母の声が聞

こえたそうです。「いかに自分が正しくとも、怒りに狂ってはなりません。そなたは観音さまのお子なのです。観音さまのごとく、やさしい慈悲のこころで人々を導いてください」と頼んだ。この母の願いをお忘れですか」

瑩山は思わずその場に警策を落としてしまい、自分の短気を反省し、その後は見違えるような柔和な人になりました。

学校教育法には、「校長及び教員は教育上必要があると認めるときは、(中略)児童生徒及び学生に懲戒を加えることができる。ただし、体罰を加えることはできない」と規定されています。

夜まわり先生こと、元高校教師の水谷修氏は、「強い指導と体罰は全く違う。体罰によって一人でも引きこもり、最悪の自殺に追い込めば、それは教育ではなく、虐待なのだ」と言っています。

今回の顧問の教師の指導は、チームを強くするという美名のもとで、己の名声を得んがための、教育とは

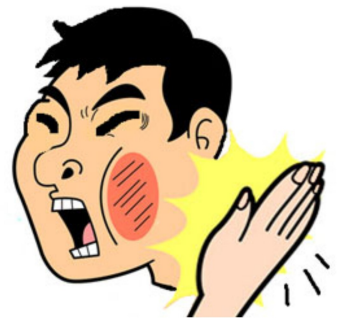
程遠い『いじめ』で、自己の鬱憤のはげぐちに行ったものにすぎないのではないのでしょうか。

熱血教師の「愛のムチ」を否定しませんが、その効用を賛美する人間は、あくまで勝ち組で一人でも心に痛みを負わせれば、それは教育ではありません。

「愛のムチ」といっても、怒りの気持ちだが、こころの底にはあるのは否定できないからです。

怒りのこころでもっては教育はできません。例えその怒りが正義の怒りであったとしても、怒りは怒りなのです。教育の場においては、すべての怒りが否定されているのだというのを教師や指導者はしっかりと心に刻んでほしいと思います。

体罰にたよらず、人格をみがき尊敬される。それこそが、プロの教師、指導者なのですから。



波濤の夢

(龍溪禪師一代記) その十二

龍溪と隠元禪師⑧

『大正統禪師』号が特賜

『妙心寺史』によると、「龍溪は、鳥取龍峰寺（現在黄檗宗興禪寺）の提宗慧全とともに、法山妙心寺に反駁したが認められず、龍溪や提宗及び門弟の活禪慧邵らは、妙心寺教団の籍を脱して黄檗派に帰した」という。

前年九月四日、隠元が松隠堂に退休するに当たって、木庵性瑄に継席を命じ、木庵が黄檗第二代の住持となった。また、この年には、龍溪が撰津三島郡芥川村の白華山久安寺の開山に請われている。同寺は、長年にわたり九島院が住職を兼務し、小衲も結婚した昭和五十年より約七年間遇した。

寛文五年（一六六五）七月二十日、木庵は將軍家綱に継席御礼のため、萬福寺の監寺をしていた龍溪の高弟の拙道道澄らとともに江戸に赴いた。

十月三日、後水尾法皇の皇子金剛寿院八条宮式部卿穩仁親王が薨崩され、その母逢春門院御匣局藤原隆子に請われて、正殿において法要を営んだ。

十一月十八日、法皇に仙洞御所へ召され、内殿で説戒し法皇の第

八皇女緋宮光子内親王元瑤に菩薩戒を授ける。

寛文六年（一六六六）三月十九日には、前年に法皇から下賜された洛北幡枝御園を寺院とし、天寿山資福寺と号し晋山したが、開山の方は幕府より故障が出て実現できなかつた。宸筆の「天寿山資福寺」の勅額は、その後龍溪の自坊の正明寺に永く奉安された。

八月二十六日、法皇の父君後陽成天皇五十回忌に当たり、法皇に請われ法要を営み、十一月には『般若心経』の要義を問われ、『心経口譚』一卷を著して進上した。余談になるが、昭和四十五年、九島院御開山龍溪禪師三百年忌並びに廿三代栄忠和尚十三回忌の辰に、大阪市教育委員会より当院が「大阪市史跡」の顕彰をうけ、弊師弘忠和尚が解釈をつけ、記念誌『心経口譚』として上梓され、檀信徒の方々に恵贈した。十月三日には、金剛寿院八条宮式部卿穩仁親王の小祥忌（一周忌）に当たり、逢春門院御匣局藤原隆子に請われ、龍溪の慶瑞寺で法要を行った。

翌寛文七年（一六六七）正月、

法皇の喜捨により龍溪の正明寺本堂を板葺きとし、四月には御宸筆の勅額『正明寺』や初祖達磨大師等を賜った。

これより十年前、龍溪が隠元を普門寺に迎えて三年めの明暦三年四月、隠元の禪への関心もあつたとみえ、龍溪が仙洞御所に招かれた折、法皇の問法に奏対（天使の問いに答えること）したが、法皇の御心にかない、「徳山門に入れば便ち棒する」の和歌頌の宸筆が贈られた。これが切っ掛けとなり、その後たびたび御所に招かれ、非常に高い信頼を得た。

寛文七年十一月七日、龍溪は後水尾法皇に法を授けた。『黄檗宗鑑録』には、後水尾大上法皇の名で、臨濟正宗第三十四世冒頭に特記されている。

法皇は、龍溪に禅の要諦を御下問になり、『庭前の柏樹子』の公案を授けられた。『無門関』の第三十七則にある公案で、「趙州、因みに僧問、「如何なるか是れ祖師西来意」州云く、「庭前の柏樹子」という禅の問題で、法皇は世間一般の知識による解釈を離れ、禅の深い悟りに達したという。龍溪には、高弟の拙道道澄をはじめ多くの弟子があつたが、法皇に法嗣したこと、法皇をはばかって他の弟子たちには法嗣しなかつた。龍溪が不慮の水定死をとげたあと、その法脈が断絶することを憂いた法皇は、龍溪の弟子の中より然るべき僧に付与することを高泉性叡に託された。

そして、後年に晦翁宝嵩（一六三五―一七一）が法皇の法嗣となるが、大問題となり、幕府の裁定で認められた。時の黄檗山住持独湛性螢（一六二八―一七〇六）が早期に退隠する原因になつたといわれている。しかし、この代付によつて龍溪の法系が現在まで受け継がれた。

寛文九年（一六六九）四月八日、龍溪六十八歳、隠元より専使によつて源流・伝法衣がもたらされ、名実共に隠元最初の日本僧嗣法者となつた。次いで九月二十日、後水尾法皇より「大正統禪師」の号が特賜され、以前に龍溪が法皇に御進講なされた碧巖録の講義書である『請益録』を、法皇の捐資により外題を『御版宗統録』として板行するようにとの御下命があり法皇から序文を賜つた。このようにして龍溪は、日本における臨濟禅の正統を体現した、比類の禅者として尊敬され、当代最高の榮譽を得ることとなつた。（つづく）



圓通寺 (天寿山資福寺) 山門

当院は、阪神なんば線で、なんばから7分です。



檀信徒の皆さまへ

『だるま堂』落成慶讃法要に
春彼岸法要にてお披露目



だるま堂建築現場 (1/23撮影)

隣接地駐車場に建築中の九島院『だるま堂』が3月上旬には完成し、春彼岸法要(山門会)時に落成慶讃法要を催す運びとなりました。これもひとえに檀信徒の皆さまのご協力あつてのことです。感謝申し上げます。当日は、だるま堂にて春彼岸法要と併せて落成慶讃法要を執り行います。しかし、何分手狭な『だるま堂』ですので、本堂でライブ映像での参詣となります。法要後に随時見学していただく予定です。本年は土曜日でもありますので、万障繰り合わせの上、ご来院お待ちしております。

全日本仏教青年会 全国大会in大阪

日時：5月7日(火)
14時～17時
場所：南御堂1階講堂
(真宗大谷派難波別院)

パネリスト

釈 徹宗 師、玄侑 宗久師
中沢 新一氏

内容：『宗教都市大阪にみるこれからの日本』をテーマにしたシンポジウム。

参加無料 申込制

めったとない機会です。当院副住職がこの事業の事務局長を務めておりますので、是非とも檀信徒の皆さまにもご参加してほしいと思っております。

(別紙参照)

行事報告

12/8 はじめての坐禅…参加者八名はじめての開催。坐禅の初心者向け体験講座です。小学生も含め八名の参加者に来ていただきました。

行事予定

12/31 坐禅と除夜の鐘…参加者四十名地域の恒例行事となり、年々参加者が増えて賑やかに新年を迎えることができました。

2/11 写経と精進料理の夕べ
主催…大阪市仏教青年会

四天王寺客殿を利用しての写経会です。参加費三千元。

3/23 …山門会(春のお彼岸法要)
(別紙参照)

3/30 …写経会 15時～参加費千円
(別紙参照)

4/2 …花まつり子ども大会 13時～
会場…クレオ大阪中央
(主催…大阪市仏教青年会)

4/8 花まつり甘茶接待(西区仏教会)
九条駅前での甘茶の接待です。

平成25年 年忌早見表

年 忌 早 見 表			
年 忌	寂 年	年 忌	寂 年
1周忌	平成24年	17回忌	平成9年
3回忌	平成23年	25回忌	平成元年
7回忌	平成19年	33回忌	昭和56年
13回忌	平成13年	50回忌	昭和39年

5/18 …お寺 de ヨガ 14時～
(別紙参照)

5/18 …お寺 de バザー 13時～
(別紙参照)

お寺 de ヨガと同日に、チャリティーバザーを行います。そこで、ご協力をお願いします。

自宅に眠ってる不要なモノを当院までお預け下さい。

永代供養墓 大亀地藏尊

☆申込受付中☆



墓地管理費のご納付をお願いします。墓参りの折、郵便振込みでも結構です。

九条から阪神三宮駅・近鉄奈良駅まで一直線!

編集後記

▼今年のNHK大河ドラマは『八重の桜』です。幕末から日露戦争までの激動の時代を、会津武士道精神で力強く生き抜いた新島八重の生涯を描いています。昨年しんねんの平清盛とはちがいが、画像が美しく、子役『鈴木梨央』が可愛らしく八重を好演しています。

▼八重は鶴が城籠城のおり男装し、銃を持ち縦横無尽の活躍をしました。戦後、同志社大学を設立した新島襄と結婚し、彼から『ハン

サムウーマン』と愛され日露戦争では篤志看護婦として活躍した人物です。

▼会津では『什の掟』じのじょうといって、子供たちに、厳しい掟を課していました。現在でも、藩校日新館の伝統を継ぐ小学校は、子どもたちが暗唱しています。

▼年長者の言ふことに背いてはなりません。・・・嘘言を言ふ・・・卑怯な振る舞い・・・弱いものをいぢめる・・・等々の掟を定め、最後に「ならぬことはならぬものです」と結んでいます。

▼戦後民主教育では、すべからず議論をし、

結論を見いだすのが正しいと教えられてきました。

▼でも「ならぬことはならぬもの」なのです。そこには、議論の余地はありません。

▼先生が『恩師』として尊敬されたのも、そうした規範を身をもって示してくれたからです。勿論、自己に対しての厳しさが、求められることは言うまでもないことです。

▼新年が始まって間もありませんが、今年はひとつ自分自身に対して「ならぬことはならぬ」と、自問自答し精進してはいかがですか。

● 忠佑誕生 ●

昨年11月19日、待望の男子が誕生しました。お七夜に、父親の副住職穂積が命名しました。名前は『忠佑(ただすけ)』です。祖父弘忠、曾祖父栄忠の名前から「忠」の一字を頂き、「佑」には、正直で裏表のないという意味、「佑」には、たすけるといふ意味があるとのことで、「正直で素直に育ちいろいろな人を助けることができる優しい男になってほしい」との思いをこめて命名したそうです。

夕方の読売テレビの報道番組で、その日に誕生した新生児を紹介する「めばえ」というコーナーがあります。毎回楽しみに見っていますが、昨今の子供の名前は耳あたりはよいが、文字が当て字で違和感を感じる名前が多いように思われます。

昨年しんねんの名前は、男の子は2年連続で『蓮』くんが1位。2位は『颯太』くん。3位は『大翔』くんだそうで、「太」や「大」のついた名前が上位の多くを占めています。「蓮」は根を力強く張るイメージ、「太」や「大」はひろがりのある字形で、ともに安定感があるイメージが好感されているようで、昨年しんねんの景気低迷や政治の混迷など、不安定な世相を反映して、「しっかり地に足をつけ、たくましく育ててほしい」との親の気持ちが現れています。

女の子の1位は『結衣』ちゃん、「結」のつく名前の『結菜』ちゃん(3位)『結愛』ちゃん(4位)『美結』ちゃん(9位)がトップ10入りしています。

東日本大震災以降、家族や友人とのつながりの大切さが見直され、新生児に「人との結びつきを大切に育つてほしい」と願う親の気持ちが伝わってきます。

いずれにしても、名前に込められた親の願いを大事に生きてほしいですね。



九島院のフェイスブックページを作りました！検索してみてくださいね！

さんもんえ
山門会 (春彼岸法要)

3月23日(土)

午後 1 時 より

※ご先祖供養です。宗旨に関係ありません※
ご回向お申込み下さい。

併修:九島院だるま堂落成慶讃法要

ご案内

墓地管理費のご納付をお願いします。墓参りの折、郵便振込みでも結構です。